

# 研修報告書No. 1 1

研修先 四万十市国民健康保険西土佐診療所

大阪市立池田病院 研修医 岩本 剛幸

高知県の西土佐診療所での 1 か月の研修を通して感じたことは今まで考えていた以上に地域医療の現場では医師を初めとした医療スタッフ、検査器具などの施設の備品などが不足していることを実感しました。普段、大阪という都市部の病院で働いていることもあり何気なく行っていた医療がいかに恵まれたものであったかを考える機会となりました。普段は採血や画像検査の結果に頼っていた診療も、今回の研修では検査が出来ないので患者の間診や身体診察などから推論して診断し、必要であれば転送を判断しなければなりません。このような経験が出来て、これまでの自身の診療内容を見直す良い機械が得られました。一方で地域と都市部で医療の質に格差が生まれている現状に疑問も沸きました。地域に住む患者もそのことを自覚していて、普段は都会の専門医へ通って体調が悪く都会に行けない時だけ地元の診療所を利用する、本来の地域と都市の病院の役割とは全く逆の医療の利用のされ方が多くみられました。そこには患者自身の労力、医療資源の無駄が多いように思いました。医療の適切な配分やそれを利用する患者にも賢い医療の利用の仕方を指導していくことも都市と地域の医療格差を埋める手立てではないかと思いました。

今回の地域医療では災害医療について色々と考えさせられました。東日本大震災後より災害医療が盛んになってきているという話は大阪でも耳にはしてはいましたが、実際に普段の診療の現場でそのことを意識しながら働くことはありませんでした。しかし、高知県では南海大地震が起きた場合に津波などによる大きな被害が想定されることもあり、災害医療に対する意識が非常に高いと感じました。沿岸部に近い地域だけでなく今回研修を行った西土佐診療所でも実際に地域住民に協力得て、トリアージ訓練を行ったり各集落ごとに住民を集めて防災の講習会を開いたり、防災への取り組みを医療現場だけでなく地域住民を巻き込んで行っていたことにとっても感銘を受けました。東日本大震災以降、盛んに災害医療が叫ばれていたにもかかわらず、どこか他人事のように考えていた自分に反省し大阪に帰ってきてからも引き続きいつ災害が起こってもいいよう災害医療への知識や必要とされるスキルを習得しようと思えます。

また、研修内容は出張診療所への往診、普段の外来診察、当直、地域住民への講習など多岐にわたっており、どれも大変勉強になりました。往診や街中でも患者と直接触れ合う機会が多く、治療に関わっている患者の生活も身近に感じることができ、医療スタッフと患者との距離が良い意味で近いように感じられました。治療が終われば、また新しい患者がやってくるの繰り返しのように感じる都会の診療とは違う、患者の人生に関わっている意識がより強く感じられ医療のモチベーションが高く持てたと思えます。

最後に西土佐診療所での研修はとても充実した 1 ヶ月でした。今回の経験を活かしてこれからの診療にあたっていきたいと思えます。